

岐阜県羽島市に奇跡の学校改革を遂げた公立小学校がある。聞き、訪ねた。

行き交う教職員が笑顔であいさつをかわす。校舎の隅々まで掃除が行き届いている。驚いたのはカラフルなトイレ。「暗く汚いイメージのトイレをきれいにし、見えない所もきれいにする心を育てよう」と児童と保護者がペイントし、絵に合わせてレインボー、たんぼぼ、と名前までつけた。ちようと研究授業をやっていた。教員の問いかけに次々と手が上がる。「ハイ」と元気よく返事をし、前の席の子は後ろを振り返ってみんなに語る。結論から言い「わけは」と理由をつける。周りの子は一斉に発言者を見る。発言が終わると「分かりました」「ありがとう」「ございました」と

漆紫穂子

品川女子学院校長

解答乱麻



口々に言う。あとの子は前の子の発言を受け「○○さんの意見は△△でしたが、

の岐阜教育事務所、西原朗課長に気づくと「校長せんせー」と駆け寄り、抱きついたり手を握ったり、あつという間に輪ができた。担当の女性が「先生の思いはすべて飾ってありますよ」と指さし、昨年まで校長だった西原氏の考えた正木小のトレードマーク

ティーを学ぶ。その道ではないのか。岐阜県最大規模で児童数1000人を超す。「特別な理由」など見つからない。ただひたすら「子供たちの未来のために」という志を胸に、支援者を広げていった結果である。現在、西原氏は県の教育支援課に籍を置く。次なる志は県下すべての学校にこの思いを伝えることだ。ここに「特別な理由」のない学校が変革したという事実がある。一人の志が一校を変え、一校の成功事例が一県に普及し他県に広がり、一国の教育を変えていくことは夢ではない。

# 奇跡の小学校を見た

付け加えると」と話す。教室中を見渡したがついて行っていない子がいない。思わず「児童は選ばれた子ですか」と聞くと、通常のクラス単位、授業担当は3年目の教員だという。放課後、児童保育の教室へ行った。子供たちが案内

「爽」という文字があった。「明るくさわやかに、そして文字の中に×が4つあっても大丈夫。挑戦する心の大切さを表している。西原氏に改革の中身を聞いた。マニフェストの発表、公開職員会議の実施、全職員が企業でホスピタリ

した。挙げればきりがなかった。子供と親と地域が融合、活性化し在任中、不登校はゼロに。しかもここまで必要とした時間はたった2年。思わず「特別な理由」を探した。民間人校長ではないのか。西原氏は教育学部から市職員を経て校長に就任

にひと筋の光を見た。改革に対しさまざまな問題点が指摘される今、ボトムアップで改革をしていく道

# 教育